

全体的な集計結果の説明

1 はじめに

本集計結果を参考とする場合は、あらかじめ次の3点に留意する必要がある。

- 1) 集計を行うに当たって、法人設立後1年未満のもの、損益状況、財政状況の記載内容に不備があるものを除外した結果、客体数は、全国の医療法人 5,533施設の中の 1,769施設（全体の 32.0%）にとどまっていること。
- 2) 本集計においては、数値を平均値、20%値、中央値、80%値などいくつかの統計的データをとっているが、対象施設には開設年次が古いものと新しいものが混在していること。
- 3) 前年度との比較も試みたが、両者は必ずしも同一客体でないこと等から、医療法人病院の傾向をみることはできるが、これをもって正確な比較や全体の状態とみることはできないこと。

2 集計対象施設数と病床数等（表1参照）

集計対象施設数は 1,769施設となっており、その内訳は一般病院 1,040施設、療養型（老人）病院 330施設、精神病院 399施設となっている。

1 病院当たりの病床数は、一般病院 125.8床、療養型（老人）病院 127.6床、精神病院 259.2床である。

表1：集計対象施設数と病床数等

区 分	一般病院	療養型(老人)病院	精神病院
集計対象施設数 (病院)	1,040	330	399
病床数 (床)	125.8	127.6	259.2
病床利用率 (%)	84.4	95.5	95.1
外来／入院比 (倍)	1.80	0.52	0.23
1 日平均入院患者数 (人)	106.1	121.8	246.4
1 日平均外来患者数 (人)	191.0	63.6	57.5

表2 損益状況の推移

区 分	黒字の病院の比率			赤字の病院の比率		
	12年度	13年度	14年度	12年度	13年度	14年度
一般病院 (%)	82.1	80.5	73.8	17.9	19.5	26.2
療養型(老人)病院 (%)	86.5	87.3	83.9	13.5	12.7	16.1
精神病院 (%)	80.7	83.6	81.5	19.3	16.4	18.5

3 損益状況からみた一般病院の経営状況（表2・表3・表4参照）

一般病院の対象施設数 1,040施設のうち、赤字の病院数は 273施設で全体の 26.2%となっており、13年度調査（19.5%）と比較すると赤字病院の割合は 6.7%増加している。

また、地域によってバラつきがみられる。

表3：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (病院)	1,040	767	273
病床数 (床)	125.8	129.8	114.3
1日平均入院患者数 (人)	106.1	111.7	90.3
1日平均外来患者数 (人)	191.0	194.6	180.7

表4：損益状況の推移

区 分		13 年			14 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		963	775	80.5	1,040	767	73.8
病 床 規 模	99床以下	493	377	76.5	525	375	71.4
	100~199床	337	282	83.7	377	288	76.4
	200~299床	75	66	88.0	85	65	76.5
	300床以上	58	50	86.2	53	39	73.6
都 道 府 県 ブ ロ ッ ク	北 海 道	51	38	74.5	78	60	76.9
	東 北 道	62	51	82.3	70	48	68.6
	関 東 道	183	148	80.9	184	127	69.0
	中 部 道	163	129	79.1	168	120	71.4
	近 畿 道	196	150	76.5	192	140	72.9
	中 国 道	46	40	87.0	48	40	83.3
	四 国 道	98	85	86.7	95	72	75.8
	九 州 道	164	134	81.7	205	160	78.0
病院 所在 地の 人口	政 令 指 定 都 市	180	140	77.8	192	140	72.9
	人口20万人以上	328	269	82.0	333	231	69.4
	人口5万人以上	255	198	77.6	283	221	78.1
	そ の 他	200	168	84.0	232	175	75.4

1) 機能性 (表5 参照)

病床利用率では、黒字の病院 86.0%、赤字の病院 79.0%と 7.0%の差がある。13年度調査では、黒字の病院と赤字の病院とでは、7.2%の差があり、病床利用率の差が小さくなっている。全体としては13年度 83.1 %から14年度 84.4%と 1.3 %増加している。

平均在院日数は、黒字の病院 36.4日に対して、赤字の病院は 33.8日と、2.6日赤字の病院が短い。13年度調査では、赤字の病院の方が 1.0日短くなっていた。全体としては、13年度 34.9日から14年度 35.8日と 0.9日長くなっている。

患者 1 人 1 日当たり入院収益は、黒字の病院 23,933円、赤字の病院 23,542円と黒字の病院が 391円高い。13年度調査では、黒字の病院が 361円高く、患者 1 人 1 日当たり入院収益の差は、大きくなっている。なお、全体としては13年度 24,110円から14年度 23,845円と 265円減少している。

表 5 : 損益状況からみた機能性
(平成14年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	84.4	86.0	79.0
外来 / 入院比 (倍)	1.80	1.74	2.00
平均在院日数 (日)	35.8	36.4	33.8
患者 1 0 0 人当たり従事者数 (人)	71.0	70.5	72.6
患者 1 人 1 日当たり入院収益 (円)	23,845	23,933	23,542
患者 1 人 1 日当たり外来収益 (円)	7,869	8,038	7,358

参考 : (平成13年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	83.1	84.2	77.0
外来 / 入院比 (倍)	1.91	1.88	2.09
平均在院日数 (日)	34.9	35.0	34.0
患者 1 人 1 日当たり入院収益 (円)	24,110	24,163	23,802
患者 1 人 1 日当たり外来収益 (円)	7,880	7,912	7,708

2) 収益性 (表6 参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が人件費率 5.5%、材料費率 0.7%、経費率 3.9%、委託費率 0.4%、減価償却費率 0.3%といずれも低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については13年度調査に比べ黒字の病院で 1.3%、赤字の病院で 0.7%各々増加している。

表 6 : 損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	51.4	50.1	55.6	46.9	53.7	60.1
材料費率 (%)	22.0	21.8	22.5	13.3	18.8	25.7
経費率 (%)	15.2	14.3	18.2	11.7	15.2	19.7
委託費率 (%)	4.1	4.0	4.4	1.1	3.1	6.6
減価償却費率 (%)	4.1	4.0	4.3	2.1	3.6	5.6
医業収益対医業利益率 (%)	3.3	5.7	-4.9	注) 各比率の最下位から20%・中央値(50%)・80%にある施設の値を示している。		
経常収益対経常利益率 (%)	3.1	5.2	-4.0			
総収益対総利益率 (%)	2.8	4.8	-3.8			
経常収益対支払利息率 (%)	1.3	1.4	1.2			

3) 生産性 (表7 参照)

常勤医師 1 人当たりの年間給与は、全体 14,855千円、黒字の病院 14,580千円、赤字の病院 15,745千円となっている。13年度より全体で 161千円、黒字の病院で 442千円下降している一方、赤字の病院で 763千円上昇しており、赤字の病院が黒字の病院の年間給与を上回った。また、常勤看護師 1 人当たりの年間給与は、全体 4,904千円、黒字の病院 4,863千円、赤字の病院 5,037千円と、いずれも13年度調査を下回っている。

労働分配率は、付加価値を人件費として配分している比率を見るもので、100%を越えると赤字であることを示す。14年度の黒字の病院と赤字の病院の労働分配率の差は 19.9%で、13年度の 20.3%と比較すると、ややその差が縮まっている。

表 7 : 損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
常勤医師 1 人当たりの年間給与 (千円)	14,855	14,580	15,745
常勤看護師 1 人当たりの年間給与 (千円)	4,904	4,863	5,037
従事者 1 人当たりの年間医業収益 (千円)	12,377	12,575	11,743
労働生産性 (千円)	6,767	7,020	5,953
労働分配率 (%)	94.0	89.8	109.7

4 損益状況からみた療養型（老人）病院の経営状況 （表2・表8・表9参照）

療養型（老人）病院の対象施設数 330施設のうち、赤字の病院数は53施設で、全体の16.1%となっており、13年度調査（12.7%）と比べ赤字の病院の割合が 3.4%増加している。

ただし、病床規模と地域により相違がみられる。

表8：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (病院)	330	277	53
病床数 (床)	127.6	135.9	84.4
1日平均入院患者数 (人)	121.8	129.9	79.5
1日平均外来患者数 (人)	63.6	61.1	76.8

表9：損益状況の推移

区 分		13 年			14 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		292	255	87.3	330	277	83.9
病 床 規 模	99床以下	146	123	84.2	169	133	78.7
	100~199床	100	87	87.0	104	89	85.6
	200~299床	29	28	96.6	37	35	94.6
	300床以上	17	17	100.0	20	20	100.0
都 道 府 県 ブ ロ ッ ク	北 海 道	17	17	100.0	18	14	77.8
	東 北 道	11	10	90.9	18	16	88.9
	関 東 区	42	33	78.6	34	27	79.4
	中 部 圏	50	44	88.0	53	45	84.9
	近 畿 圏	35	30	85.7	39	33	84.6
	中 国 圏	18	15	83.3	21	18	85.7
	四 国 圏	50	45	90.0	62	52	83.9
	九 州 圏	69	61	88.4	85	72	84.7
病院 所在 地の 人口	政 令 指 定 都 市	43	33	76.7	34	29	85.3
	人口20万人以上	77	67	87.0	94	81	86.2
	人口5万人以上	59	52	88.1	86	69	80.2
	そ の 他	113	103	91.2	116	98	84.5

1) 機能性 (表10参照)

病床利用率では、黒字の病院 95.6%、赤字の病院 94.2%と黒字の病院がわずかに 1.4%上回っている。13年度調査では、赤字の病院の方が 0.6%上回っていた。全体としては、13年度 92.6%から、14年度 95.5%と 2.9%増加している。

平均在院日数は、黒字の病院で 240.0日、赤字の病院で 167.9日と、72.1日の差がある。13年度調査では、黒字の病院と赤字の病院とでは、69.9日の差があり、平均在院日数の差は大きくなっている。全体としては、13年度 249.4日に対して、14年度 229.7日と、19.7日短くなっている。

患者1人1日当たり入院収益は、黒字の病院 15,772円、赤字の病院 14,670円と黒字の病院が 1,102円高い。13年度調査では、赤字の病院が 1,134円高く、患者1人1日当たり入院収益は、黒字の病院と赤字の病院とで逆転している。全体としては、13年度 15,458円から、14年度 15,656円と、198円増加している。

表10：損益状況からみた機能性
(平成14年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	95.5	95.6	94.2
外来 / 入院比 (倍)	0.52	0.47	0.97
平均在院日数 (日)	229.7	240.0	167.9
患者100人当たり従事者数 (人)	68.4	68.4	68.2
患者1人1日当たり入院収益 (円)	15,656	15,772	14,670
患者1人1日当たり外来収益 (円)	6,377	6,453	6,064

参考：(平成13年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	92.6	92.6	93.2
外来 / 入院比 (倍)	0.50	0.49	0.67
平均在院日数 (日)	249.4	257.8	187.9
患者1人1日当たり入院収益 (円)	15,458	15,355	16,489
患者1人1日当たり外来収益 (円)	6,878	6,898	6,726

2) 収益性 (表 1 1 参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が人件費率 5.6%、材料費率 2.2%、経費率 3.7%、委託費率 1.7%、減価償却費率 0.3%といずれも低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については13年度調査と比べ黒字の病院で 0.9%、赤字の病院で 0.5%各々増加している。

表 1 1 : 損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	55.6	54.9	60.5	50.7	56.8	62.8
材料費率 (%)	10.9	10.7	12.9	6.9	10.6	14.9
経費率 (%)	16.6	16.2	19.9	12.6	15.8	21.0
委託費率 (%)	4.4	4.2	5.9	0.7	2.8	7.8
減価償却費率 (%)	4.6	4.6	4.9	2.5	4.6	6.3
医業収益対医業利益率 (%)	7.9	9.4	-4.1			
経常収益対経常利益率 (%)	7.6	8.9	-2.6			
総収益対総利益率 (%)	7.4	8.7	-2.9			
経常収益対支払利息率 (%)	1.8	1.8	1.8			

3) 生産性 (表 1 2 参照)

常勤医師 1 人当たりの年間給与は、全体 14,409円、黒字の病院 14,269千円、赤字の病院 15,290千円となっており、13年度より全体で 400千円、黒字の病院で 538千円と上昇している一方、赤字の病院で 1,016千円下降している。また、常勤看護師 1 人当たりの年間給与は、全体 4,607千円、黒字の病院 4,643千円、赤字の病院 4,352千円となっている。13年度調査と比較すると、赤字の病院では 653千円、黒字の病院で 27千円下降しており、全体では、95千円の下降となっている。

労働分配率は、付加価値を人件費として配分している比率を見るもので、100%を越えると赤字であることを示す。14年度の黒字の病院と赤字の病院の労働分配率の差は 21.8%で、13年度の22.0%と比較すると、ややその差は縮まっている。

表 1 2 : 損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
常勤医師 1 人当たりの年間給与 (千円)	14,409	14,269	15,290
常勤看護師 1 人当たりの年間給与 (千円)	4,607	4,643	4,352
従事者 1 人当たりの年間医業収益 (千円)	9,140	9,177	8,860
労働生産性 (千円)	5,797	5,904	4,997
労働分配率 (%)	87.6	85.4	107.2

5 損益状況からみた精神病院の経営状況 (表2・表13・表14参照)

精神病院の対象施設数 399施設のうち、赤字の病院数は74施設で全体の18.5%となっており、13年度調査(16.4%)と比べ赤字病院の割合が2.1%増加している。
ただし、地域により相違がみられる

表13：損益状況からみた基礎数値

区 分	全 体	黒 字	赤 字
集計対象施設数 (病院)	399	325	74
病床数 (床)	259.2	261.5	248.8
1日平均入院患者数 (人)	246.4	249.7	231.6
1日平均外来患者数 (人)	57.5	57.2	58.9

表14：損益状況の推移

区 分		13 年			14 年		
		施設数	黒字の病院		施設数	黒字の病院	
			施設数	比 率		施設数	比 率
総 数		336	281	83.6	399	325	81.5
病 床 規 模	99床以下	-	-	-	-	-	-
	100~199床	118	98	83.1	140	110	78.6
	200~299床	119	97	81.5	137	115	83.9
	300床以上	99	86	86.9	122	100	82.0
都 道 府 県 ブ ロ ッ ク	北 海 道	26	21	80.8	30	24	80.0
	東 北 道	39	30	76.9	44	31	70.5
	関 東 道	49	40	81.6	59	48	81.4
	中 部 道	58	44	75.9	67	47	70.1
	近 畿 道	44	36	81.8	42	39	92.9
	中 国 道	28	25	89.3	30	26	86.7
	四 国 道	24	21	87.5	26	19	73.1
	九 州 道	68	64	94.1	101	91	90.1
病院 所在 地の 人口	政 令 指 定 都 市	42	35	83.3	53	42	79.2
	人口20万人以上	106	87	82.1	123	101	82.1
	人口5万人以上	90	77	85.6	109	88	80.7
	そ の 他	98	82	83.7	114	94	82.5

1) 機能性 (表15 参照)

病床利用率では黒字の病院 95.5%、赤字の病院 93.1%と、 2.4%の差がある。13年度調査でも、黒字の病院と赤字の病院とでは 2.2%の差があり、14年度もその差はほぼ同じであるといえる。全体としては13年度 94.9%から14年度 95.1%と 0.2%増加している。

平均在院日数は、黒字の病院 400.7日に対して、赤字の病院 390.8日と、 9.9日の差がある。13年度調査では、赤字の病院と黒字の病院とでは、 10.6日の差があり、平均在院日数の差は逆転し黒字の方が長くなっている。全体としては、13年度 432.2日から14年度 399.0日と 33.2日短くなっている。

患者 1 人 1 日当たり入院収益は、黒字の病院 12,769円、赤字の病院 11,895円と黒字の病院の方が 874円高い。13年度調査では、黒字の病院が 654円高く、患者 1 人 1 日当たり入院収益の差は大きくなっている。全体としては、13年度 12,365円から14年度 12,616円と 251円増加している。

表15：損益状況からみた機能性
(平成14年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	95.1	95.5	93.1
外来 / 入院比 (倍)	0.23	0.23	0.25
平均在院日数 (日)	399.0	400.7	390.8
患者 1 0 0 人当たり従事者数 (人)	53.9	54.2	52.3
患者 1 人 1 日当たり入院収益 (円)	12,616	12,769	11,895
患者 1 人 1 日当たり外来収益 (円)	7,858	7,837	7,946

参考：(平成13年度)

区 分	全 体	黒 字	赤 字
病床利用率 (%)	94.9	95.3	93.1
外来 / 入院比 (倍)	0.22	0.21	0.25
平均在院日数 (日)	432.2	430.6	441.2
患者 1 人 1 日当たり入院収益 (円)	12,365	12,463	11,809
患者 1 人 1 日当たり外来収益 (円)	8,131	8,054	8,500

2) 収益性 (表 1 6 参照)

損益状況からみた収益性を黒字の病院と赤字の病院で比較すると、黒字の病院の方が人件費率 6.7%、材料費率 1.0%、経費率 1.5%、委託費率 1.7%、減価償却費率 1.2%といずれも低くなっており、黒字の病院は、効率的な医療の提供や、経費の合理化・適正化に努めていると考えられる。

なお、人件費率については13年度調査と比べ黒字の病院で 0.4%、赤字の病院で 0.6%増加している。

表 1 6 : 損益状況からみた収益性

区 分	全体	黒字	赤字	20%値	中央値	80%値
人件費率 (%)	60.7	59.6	66.3	55.0	60.9	65.8
材料費率 (%)	12.5	12.3	13.3	9.4	12.4	15.8
経費率 (%)	14.4	14.1	15.6	10.6	13.9	18.0
委託費率 (%)	3.0	2.7	4.4	0.5	1.6	5.0
減価償却費率 (%)	4.5	4.3	5.5	2.2	4.0	6.5
医業収益対医業利益率 (%)	5.0	7.0	-5.2			
経常収益対経常利益率 (%)	5.7	7.5	-2.9			
総収益対総利益率 (%)	5.3	7.1	-3.3			
経常収益対支払利息率 (%)	1.3	1.3	1.3			

3) 生産性 (表 1 7 参照)

常勤医師 1 人当たりの年間給与は、全体 15,220千円、黒字の病院 15,300千円、赤字の病院 14,844千円となっており、全体で 112千円、黒字の病院で 52千円、赤字の病院で 380千円といずれも13年度調査を下回っている。また14年度の黒字と赤字の病院の差は13年度に比べ大きくなっている。常勤看護師 1 人当たりの年間給与では、全体 4,741千円、黒字の病院 4,707千円、赤字の病院 4,900千円となっている。13年度と比較すると、黒字の病院では 24千円上昇し、赤字の病院で 345千円下降しており、全体では 26千円の下降となっている。

労働分配率は、付加価値を人件費として配分している比率を見るもので、100%を越えると赤字であることを示す。14年度の黒字の病院と赤字の病院の労働分配率の差は 19.0%で、13年度の16.5%と比較すると、ややその差は広まっている。

表 1 7 : 損益状況からみた生産性

区 分	全 体	黒 字	赤 字
常勤医師 1 人当たりの年間給与 (千円)	15,220	15,300	14,844
常勤看護師 1 人当たりの年間給与 (千円)	4,741	4,707	4,900
従事者 1 人当たりの年間医業収益 (千円)	9,155	9,192	8,972
労働生産性 (千円)	6,016	6,125	5,482
労働分配率 (%)	92.4	89.5	108.5

6 財政状態からみた病院の経営状況

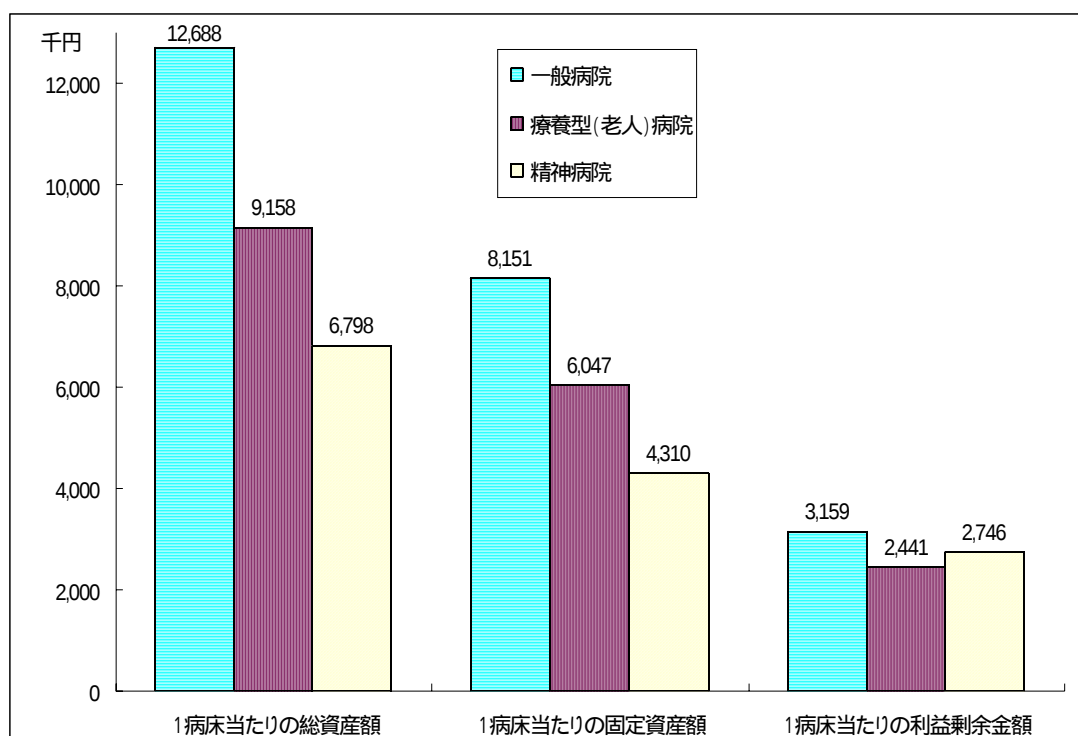
1) 財政状態からみた病院の経営状況 - 1 (表18参照)

1 病床当たりの総資産額、固定資産額、利益剰余金額は、いずれも一般病院が高い数値を示している。

1 病床当たりの利益剰余金は、診療活動から生み出された内部留保が1 病床当たりいくらの利益があるかをみるものであり、療養型(老人)病院が、他の種別の病院と比べて低い。

表 1 8 : 財政状態からみた病院の経営状況 - 1

区 分	一 般 病 院	療養型(老人)病院	精 神 病 院
1 病床当たりの総資産額 (千円)	12,688	9,158	6,798
1 病床当たりの固定資産額 (千円)	8,151	6,047	4,310
1 病床当たりの利益剰余金額 (千円)	3,159	2,441	2,746



2) 財政状態からみた病院の経営状況 - 2 (表19参照)

自己資本比率は、経営の安定性を示す指標であり、一般病院 32.1%、療養型（老人）病院 37.2%、精神病院 46.8%のいずれの病院でも平均は 20%を超えている。13年度調査との比較では一般病院、療養型（老人）病院とも若干増加しているが、精神病院は 0.9%減少している。

精神病院の自己資本比率が相対的に高いのは、精神病院が一般的に他の種別の病院と比較して総資産額が少ないことが影響していることも考えられるので、これをもって、精神病院の優位性を示しているとみることはできない。

固定長期適合率は、自己資本と固定負債を加えた額で固定資産を除いてその割合をみるもので、固定資産取得の安全性を測るものである。今回の集計は、全体で 70%を示している。

自己資本比率がいずれの病院も平均では20%を超えており、全体としては固定資産への過大な設備投資はないものと考えられる。

流動比率は、1年以内の短期支払い能力を測るものであり、通常この比率は少なくとも 100%以上が好ましいとされているが、一般病院 179.8%、療養型（老人）病院 274.9%、精神病院 293.8%となっている。

総資本対経常利益率は診療活動から生み出された利益と、その利益を生み出すための資本の割合を示す経営効率の指標であるが、療養型（老人）病院が 6.0%と高い。

総資本回転率は、医業収益を総資本で除した値で、この比率が高いほど診療活動は活発で総資本の投下率が高いとされる。一般病院は0.93回転、療養型（老人）病院は0.77回転、精神病院は 0.74回転といずれも1回転を下回っている。

表 19：財政状態からみた病院の経営状況 - 2

区 分	一 般 病 院	療養型(老人)病院	精 神 病 院
自己資本比率 (%)	32.1	37.2	46.8
固定長期適合率 (%)	79.9	75.3	72.4
流動比率 (%)	179.8	274.9	293.8
医業収益対借入金比率 (%)	48.6	63.2	51.8
総資本対経常利益率 (%)	3.0	6.0	4.4
総資本回転率 (回転)	0.93	0.77	0.74

